

今、いちばん気になる統計は？

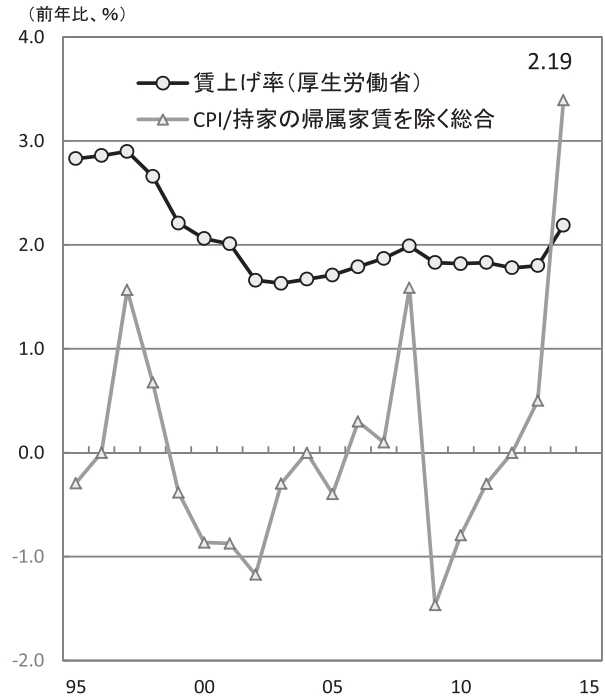
2015年の賃上げ率に注目

2014年は企業収益の好調、労働需給のタイト化を背景に15年ぶりとなる2.19%の賃上げ率となった。もちろん働く人すべての給料が等しく増えたわけではないものの2014年暦年では現金給与総額でも+0.8%（一般労働者+1.3%、パートタイム労働者+0.4%）と着実にプラスになっている。一方、賃金の上昇以上に消費税の影響もあり消費者物価が上昇したことから物価の影響を考慮した実質賃金はマイナスとなり、これが2014年の消費行動に大きな影を落とし景気の低迷に繋がったのである。

2015年は消費税の影響がなくなること、原油価格の大幅低下もあり物価上昇ペースはかなり落ち着いたものになることが想定されており賃上げ率次第では実質賃金の明確な上昇、消費拡大が期待できる。足元で企業収益は過去最高水準（法人企業統計/経常利益）にあり、政労使一体となって賃上げ機運も高まっている。今年の経済を占う意味でも注目したい。

（経済調査部 佐久間 啓）

資料 賃上げ率と物価上昇率(持家の帰属家賃除く総合)



(出所)厚生労働省、総務省
(注1)賃上げ率=資本金10億円以上かつ従業員1,000人以上の労働組合のある企業のうち、妥結額(定期昇給込みの賃上げ額)などを把握できた314社
(注2)CPIは暦年ベース

編集後記

いよいよ2015年度の始まりです。3月から4月にかけては多くの会社で大きな人事異動があり仕事の環境が変わる方々も多いと思います。またこの時期は学校の卒業、入学の時期でもあります。下級生から見ると卒業生は新しい世界に飛び込む覚悟を決めた大人の雰囲気を感じられたし、上級生から見ると新入生は不安げな表情の中にも新しい世界への期待感、緊張感を感じられました。

また、この時期は冬から春への季節の大きな変わり目であり日本人にとっては桜の季節でもあります。人々の人生の節目の時期にパッと咲いてパッと散る。こうした春の光景を幼少期から経験することが、多くの人がこの時期に感じる心のざわつき感に繋がっているような気がします。

経済研レポートは4月号から装いを一新しました。より一層皆様にご支持いただけるようコンテンツにつきまして一部変更しております。加えて弊社ホームページも新年度より装いを一新します。経済の好循環を確かなものにし新しい世界が見えるか正に正念場の2015年度、緊張感を持って情報を発信していきたいと思っております。(H.S)

○第一生命経済研レポートに関するご意見・ご要望は、keizai@dlri.dai-ichi-life.co.jpまでお寄せ下さい。

○本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。